

東京湾の底を「見える化」してSDGsを学ぶ！ 猿島「ブルーカーボン」クエスト 調査開始および取材会開催のお知らせ

このたび、株式会社トライアングル（神奈川県横須賀市：代表取締役 鈴木 隆裕、以下「トライアングル」）、国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所（神奈川県横須賀市：所長 河合弘泰、以下「港空研」）、横須賀市（市長 上地 克明）は、地球温暖化防止の重要なカギとして注目を集めている「ブルーカーボン」に関し、東京湾・猿島（さるしま）を中心とした海域での調査を共同で開始いたします。

つきましては、調査概要のご説明や実際の測定場面などを公開する「取材会」を以下の要領で行うこととなりました。

記

- 1 実施日 **2022年12月15日（木）**
- 2 時間 14：00～16：00 （13：30受付開始）
- 3 場所 猿島ビジターセンター（横須賀市小川町27-16 三笠ターミナル2階）
- 4 内容

【第1部】猿島ビジターセンター（14：00～14：40頃）

- (1) 猿島ブルーカーボンクエスト 概要説明
 - ①調査実施にあたってのご挨拶（趣旨説明および今後期待すること）
鈴木隆裕（トライアングル代表取締役）
 - ②調査内容のご説明
桑江朝比呂氏（港空研 沿岸環境研究領域長）
 - ③行政として期待すること
宮川栄一氏（横須賀市経営企画部長）
- (2) 日本財団 海と日本プロジェクトin東京 最優秀賞受賞小学2年生・瀬之上さんによる「ブルーカーボンとはどういうもの？」プレゼン
瀬之上綾音さん（東京都中央区・明正小学校2年生）
- (3) 事例報告：「ブルーカーボン」を活用したクルーズの展開について
早川一正氏（沖縄・マリン観光開発社長）
- (4) 質疑応答

**【第2部】ブルーカーボン測定調査ご視察クルーズ：三笠棧橋より「シーフレンドZero」ご乗船
(14：45～15：50頃)**

(1) 測定調査ご視察

- ①出航前に船内にてうみそら研より調査方法についてご説明
- ②三笠棧橋側で海中二酸化炭素濃度を計測し、船内モニターに計測グラフと数値を投影
- ③猿島棧橋付近で計測
- ④猿島沖・わかめ養殖場周辺にて譲原 亮氏（横須賀市東部漁業協同組合所属）より、わかめの養殖状況についてご説明
- ⑤猿島周辺海域（わかめ養殖場付近）にて計測
※水中ドローンを使い、養殖状況を船内モニターに中継
※空中ドローンも飛行予定

(2) 測定結果の発表

港空研より、本日の測定結果および今後の期待をご説明

(3) 質疑応答

5 ご出席について

ご出席いただけます場合は別紙「取材申込書」にご記入いただき【12月14日（水）17時】までにトライアングル・水上（みずかみ）宛にファックスもしくはメールでお送りください。

※当日荒天により船が運航できない場合は、「第2部」は引き続き三笠ターミナルにてご説明いたします。



■この資料に関するお問い合わせ

株式会社トライアングル・水上（みずかみ）

TEL 046-825-7144

Mail tomoya.mizukami@tryangle-web.co.jp

東京湾の底を「見える化」してSDGsを学ぶ！ 猿島「ブルーカーボン」クエスト 調査開始および取材会 ご取材申込書

ご返送先ファックス番号：046-825-7143
ご返送先メール：tomoya.mizukami@tryangle-web.co.jp

●日時：2022年12月15日（木）
14：00～16：00

※三笠ターミナルで13時50分までに受付をお願いします。
※荒天の場合は体験乗船は中止し、三笠ターミナルで引き続き説明を行います。
※駐車場は近隣のコインパーキング等をご利用ください。
（「三笠公園駐車場」「タイムズよこすかポートマーケット」が最寄です）



トライアングル 水上宛

貴社名

媒体名

ご出席者

名様（他 名様）

電話番号

携帯電話番号

メールアドレス

※ご参加の場合は上記ご記入のうえ12月14日（水）17：00までにFAXかメールでご返信ください。
※ご参加にあたってのお願い
①ご乗船前に検温を実施いたします。マスク着用の上、三笠ターミナル受付へお集まりください。
②会場内ではソーシャルディスタンスへのご理解・ご協力をお願いいたします。

1 「ブルーカーボン」とは？

2009年10月に国連環境計画（UNEP）の報告書において、藻場・浅場等の海洋生態系に取り込まれた炭素が「ブルーカーボン」と命名され、吸収源対策の新しい選択肢として提示。ブルーカーボンを隔離・貯留する海洋生態系として、海草藻場、海藻藻場、湿地・干潟、マングローブ林が挙げられ、これらは「ブルーカーボン生態系」と呼ばれています。

大気中のCO₂が光合成によって浅海域に生息するブルーカーボン生態系に取り込まれ、CO₂を有機物として隔離・貯留します。

このうち、岩礁に生育するコンブやワカメなどの海藻においては、葉状部が潮流の影響により外洋に流され、その後、水深が深い中深層に移送され、海藻が分解されながらも長期間、中深層などに留まることによって、ブルーカーボンとしての炭素が隔離・貯留されます。

この働きが、地球温暖化防止の「切り札」として近年注目を集めています。

2 なぜ「猿島」なのか？

ブルーカーボン生態系のうち、「海藻（うみも）藻場（コンブ、ワカメ、主に寒帯～沿岸域の潮間帯から水深数十mの岩礁海岸に分布）」に着目しました。

横須賀市猿島周辺では、海藻類が生息していることに加え「猿島わかめ」の養殖も盛んに行われています。

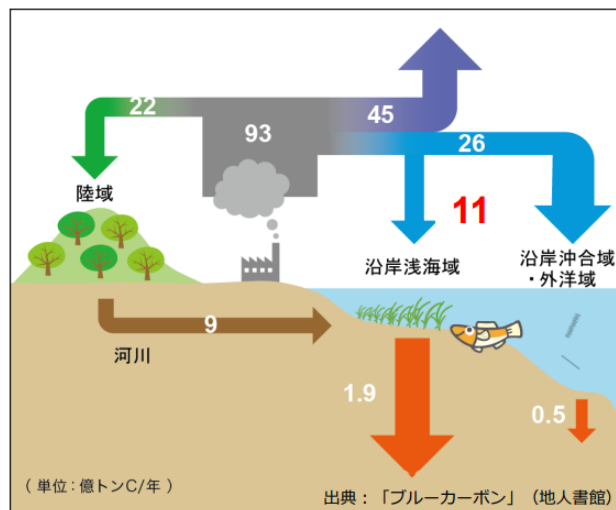
これを踏まえ、今回の調査では以下の成果を目指しています。

●猿島周辺海域で二酸化炭素を吸収していることが実証される。

●猿島航路で使用する船舶、もしくは猿島島内で使用する発電機等から排出される二酸化炭素の量がブルーカーボンの吸収量とオフセットの関係になるかどうかを調査する。

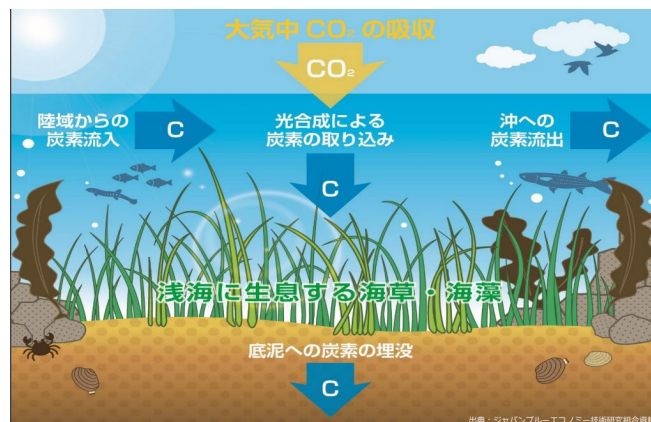
今回の調査では「トライアングル」（調査協力）、「港空研」（調査実施）、「横須賀市」（広報、各種調整等）が協定書を結び、協力して実施いたします。

炭素循環のイメージ



排出された二酸化炭素のうち、一部が陸域（22億t-C/年）や海洋（26億t-C/年）に吸収

国土交通省資料より



国土交通省資料より

3 猿島における環境の取り組み

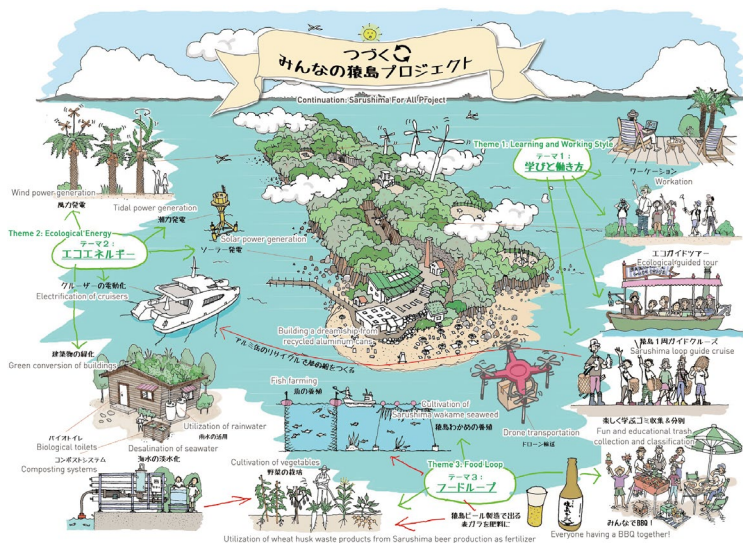
トライアングルを含む民間企業・団体12社は、東京湾に浮かぶ貴重な「宝物」の未来を見つめる「つづく みんなの猿島プロジェクト」に2020年から取り組んでいます。

テーマは「環境」と「観光」の両立。豊かな自然環境や歴史遺産を守りながら、観光と地域の発展に結びつけていこうという取り組みです。

それをつないでいくのが、さまざまな「学び」。子どもから大人まで、みなさんに猿島を知っていただき、楽しみながら環境のことを考える機会を提供していきます。

本プロジェクトでは、SDGsの考え方をもとに「環境×観光×学び」の循環をめざします。

無人島・猿島の貴重な自然や文化財を守るために、今、できることをみんなで考える、未来への新しいチャレンジです。



猿島
エコステーション



取り組みイメージ

この取り組みの一環として、2022年4月に「猿島エコステーション」が完成しました。

ゴミを「資源」ととらえ、ゴミとして廃棄されがちな「プラスチック」「ペットボトル」「アルミ缶」「スチール缶」「ビン」に来島者が自ら分別していただくことで、資源の大切さを知っていただく機会になっています。

このエコステーションは、「猿島ラボ」の高校生・大学生が内装デザインを考え、クラウドファンディングも活用して完成しました。

ここで収集されたアルミ缶を新しく建造されるエコシップの素材の一部にするなどの取り組みを、今後続けてまいります。

4 「第2回海洋インフォグラフィックコンテスト」で最優秀賞を獲得した瀬之上綾音さん

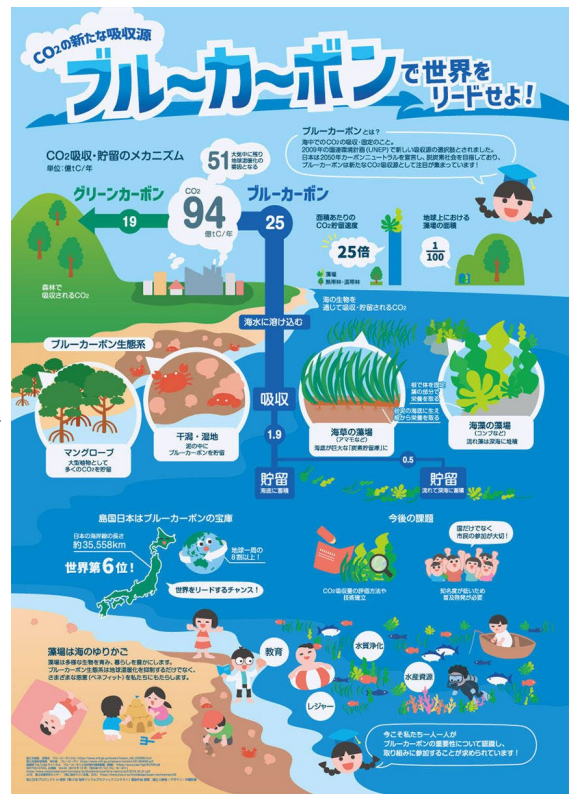
小学生の自由研究レポートを御茶ノ水美術専門学校の学生さんがインフォグラフィックで表現する「第2回海洋グラフィックコンテスト」（日本財団主催）で、東京都中央区・明正小学校2年生の瀬之上綾音さんが日本財団賞（最優秀賞）を獲得しました。

テーマは「ブルーカーボン」。

仕組みが分かりにくいブルーカーボンを視覚的に理解できるようにした作品で、インフォグラフィック化したポスターは、今後 羽田空港に展示される予定です。

自由研究レポート

インフォグラフィックポスター



今回は、瀬之上綾音さんがブルーカーボンについてプレゼンを行います。

一生懸命に資料を調べ、学んだ研究結果をぜひご覧ください。

日本財団「海と日本プロジェクト」より